

平成 29 年度第 3 回企画展「江戸の花だより」

～報道機関向け内覧会の御案内～

本展の開催に際しまして、下記のとおり、報道機関向け内覧会を行うことといたしました。報道各社の皆様におかれましては、下記の事項をご覧の上、是非この機会に御高覧賜りますよう、ご案内申し上げます。

記

○日 時：平成 29 年 11 月 17 日（金） 13 時 30 分～15 時 30 分

*1 御希望に応じて展示資料の解説をいたします。

*2 内覧会以外での取材については、事前に御相談ください。

○会 場：独立行政法人国立公文書館（東京都千代田区北の丸公園 3-2）1 階展示室

○申込方法：次頁の申込書を下記「お問合せ先」まで御送付ください。

○取材に関するお願い

①会場内でのフラッシュの使用は、御遠慮いただいております。

②会場内では係員の指示に従って下さい。

【お問合せ先】独立行政法人国立公文書館総務課広報係 朝倉、平野

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園 3-2

電話：03-3214-0622（直通） FAX：03-3212-8806

メールアドレス：kouhou@archives.go.jp

国立公文書館総務課広報係宛（FAX 03-3212-8806）

取材申込書

取材対象	平成29年度第3回企画展「江戸の花だより」
報道機関名	
御氏名	
御連絡先（電話）	
御連絡先（E-mail）	
御来館の時間	

※御来館の時間は見込みで結構です。（内覧会の開催時間：13時30分～15時30分）

平成 29 年度第 3 回企画展

江戸の花だより

平成 29 年 11 月 18 日（土）～12 月 22 日（金）

当館が建つ北の丸公園一帯では、秋から冬にかけて紅葉が見ごろになります。この時期に合わせ、当館の所蔵資料の中から、季節の草花が描かれた江戸時代の植物図譜を展示します。このほか、園芸書、名所図会なども取り上げ、江戸時代の人々の植物へのまなざしをご紹介します。

展示概要



会 期	平成 29 年 11 月 18 日（土）～12 月 22 日（金）
開館時間	月～土曜日 午前 9 時 15 分～午後 5 時 00 分 ※日曜、祝日は休止
会 場	国立公文書館（千代田区北の丸公園 3-2）1 階展示場
入 場 料	無料

【関連イベント】ギャラリー・トーク

日 時	平成 29 年 11 月 22 日（水）午後 2 時～午後 2 時 30 分 平成 29 年 12 月 20 日（水）午後 2 時～午後 2 時 30 分
会 場	国立公文書館（千代田区北の丸公園 3-2）1 階展示場
企画展の見所について企画者が解説します。事前申込みは不要です。	

主な展示のご紹介

I 江戸の四季

江戸時代の人々は、現代と同じように移り変わる四季の自然を楽しんでいました。桜や紅葉の名所などには多くの人々が訪れ、賑わっていたといいます。第一章では、江戸の名所や年中行事を記した資料を取り上げ、江戸時代の季節の楽しみ方をご紹介します。



資料は、『江戸名所図会』(江戸周辺地域を対象とした絵入り地誌)から「^{かいあんじもみじみのず}海晏寺紅葉見之図」です。
^{かいあんじ}海晏寺は現在の品川区南品川にあるお寺で、江戸の紅葉の名所でした。寺の裏手からは海を見渡すことができ、夕日に照らされた海と紅葉は絶景であったそうです。

このほか、『江戸歳事記』(東都歳事記)、『江戸遊覧花暦』(江戸名所花暦)、『絵本江戸土産』から、花見、紅葉狩、虫聴、雪見など、江戸の四季を描いた資料を展示します。

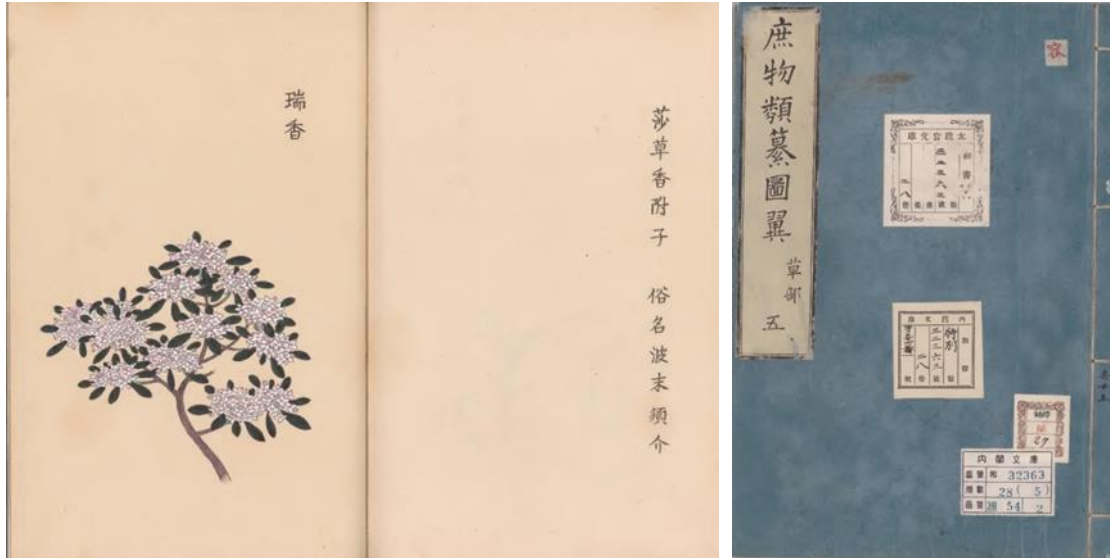
II 植物図譜の世界

江戸時代には、植物や動物等を描いた図譜が数多く生み出されます。その背景には、動植物等の薬用を研究する本草学研究的の進展、幕府や各藩による殖産事業の推進などにより、身近な動植物への関心が大きく高まったことが挙げられます。第二章では、そのうちの植物図譜を取り上げ、それぞれの図譜が描かれた背景とともに、植物図譜の世界をご紹介します。



資料は、『古今要覧稿』から「^{ここんようらんこう}雞冠木」(カエデ)です。『古今要覧稿』は、幕臣で、書家・歌人・国

学者・蔵書家としても知られる^{やしろうかた}屋代弘賢が編纂した百科全書です。文政4年(1821)から天保13年(1842)にかけて、順次、幕府へ献上されました。展示資料は明治期に内務省が購入した弘賢の草稿本。献上本は天保15年(1844)の江戸城本丸火災の際に焼失してしまいました。その事情を記した『御書籍来歴志』(紅葉山文庫の蔵書解題)も併せてご紹介いたします。



資料は『庶物類纂図翼』から「瑞香」(ジンチョウゲ)です。『庶物類纂図翼』は幕臣の^{とだすけゆき}戸田祐之が描いた薬草類の写生画集。安永8年(1779)に幕府へ献上され、本草書である『庶物類纂』(稲生若水・^{いのうじゃくすい}丹羽正伯編)の参考図録として有用であるとの意味から、この書名が与えられました。平成8年(1996)、『庶物類纂』とともに国の重要文化財に指定されます。献上の経緯を記した『庶物類纂図翼添書』、名前の由来となった『庶物類纂』、紅葉山文庫への収納を記録した『御書物方日記』を取り上げ、本書の成立から紅葉山文庫での保管に至る過程を追います。

このほか、『本草図譜』、『本草通串証図』、『花彙』、『草木図説』など、当館で所蔵する江戸時代の植物図譜をご紹介します。

Ⅲ 園芸文化の興隆

江戸の各所に各藩の大名屋敷が建てられ、屋敷内に庭園も整備されます。それに伴い庭園の維持管理を担う植木屋が生まれました。当初、将軍や大名など上層階級の人々が楽しんでいた園芸ですが、次第に、中下級の武士や庶民にも広がり、栽培や品種改良が盛んに行われるようになります。中でも色や形状が通常とは異なった奇品植物が人々の心をつかみました。第三章では、園芸書、奇品植物図集をご紹介します。



資料は朝顔の珍種を収録した多色刷の図集である『あさかほ叢』です。文化・文政期（1804～1829）に、江戸で変化朝顔が大流行しました。その流行の最中に刊行されたのが本書で、文化13年（1816）の序があります。描かれている黄色い朝顔は現存しないことから、幻の朝顔と呼ばれています。

このほか、『増補地錦抄』、『草木育種』、『草木錦葉集』、『奇品家雅見』などを展示いたします。

IV 暮らしの中の植物

植物は見て楽しむだけでなく、食べものとしても利用されます。しかし、中には毒があり、食用にできない植物もあります。最終章では、暮らしの中での植物に注目し、人々にとって身近な植物の特徴や利用法を記した資料をご紹介します。



資料は、尾張藩士の清原重巨きよはらしげたかが著した『有毒草木図説』ゆうどくそうもくずせつです。毒性のある植物について、写生図と解説が記されています。掲載されているのは、水仙と狗舌草（サワオグルマ）です。本書の凡例には、身近な植物に毒があっても、知らない者は多く、被害に遭うことが少なくないため、自分はこれを憂えて、この書を作ったと記されています。

このほか、農書である『成形図説』せいけいずせつや非常食等を記した書物である『備荒草木図』びこうそうもくずも展示いたします。

本展示では、資料保護のため、彩色の施された資料については、会期中に2回の展示替えを行います。展示資料の約半分が展示替えの対象になりますので、時期によって展示の趣が異なります。一度ならず、二度、三度と足をお運びいただき、展示の変化もお楽しみいただければ幸いです。